

第58回 JAIPAの集い in 金沢

能登 被災地訪問 レポート



2024年10月26日(土)、「JAIPAの集い in 金沢」の翌日に、地震と豪雨の被災地である能登地域を、参加希望者19名にて訪問させていただきました。能登町住民課の小川勝則さま、能登高校魅力化プロジェクトの木村聡さまのご協力のもと、現地の状況を学ぶ機会をいただきました。

<当日のスケジュール>

9:00~12:00	金沢~能登町宇出津へ移動(レンタカー)
12:00~13:00	能登町営まちなか鳳雛塾にてミーティング(能登町のCATVやインターネット環境、能登高校魅力化プロジェクトの概要説明など)
13:00~14:30	被災地視察(能登町北河内地区の豪雨による河川氾濫や家屋倒壊、震災による道路崩壊)
14:30~15:00	能登空港にて振り返り(感じたこと、思ったことを共有)
15:00~18:00	金沢へ移動、解散

小川 勝則 氏 プロフィール

- 石川県能登町役場 住民課担当課長 兼 災害廃棄物対策室長
- 前 ふるさと振興課担当課長兼地域戦略推進室(能登高校魅力化プロジェクト担当部署) 室長
- 一般社団法人新村新友会 社員
- 能登をこよなく愛す、能登町生まれ能登町育ち

木村 聡 氏 プロフィール

- 能登高校魅力化プロジェクト 地域・教育魅力化コーディネーター
- 石川県能登町公営塾「まちなか鳳雛塾」マネージャー
- 日本ガイシ(株)⇒(株)ベネッセコーポレーションを経て、2018年、東京から能登町宇出津に移住
- 一般社団法人みらいのともしび 代表理事

■ 被災地の状況

能登半島は元旦の地震により大きな被害を受け、さらに9月の記録的豪雨が追い打ちをかけ、河川氾濫や土砂崩れが相次ぎました。当日は幹線道路沿いにも被害の爪痕が残り、土砂崩れや陥没の応急措置が各所で見受けられました。

また、水害を受けて倒壊し、いまだ復旧できずに放置されている家屋なども多く点在している状況でした。

■ 「まちなか鳳雛塾」でのミーティング

能登町のインターネット普及率やケーブルテレビの現状、能登高校魅力化プロジェクトや能登高留学の取り組みについて、また、被災からの復旧状況や災害時の対応などについて、小川氏・木村氏よりお話を伺いました。

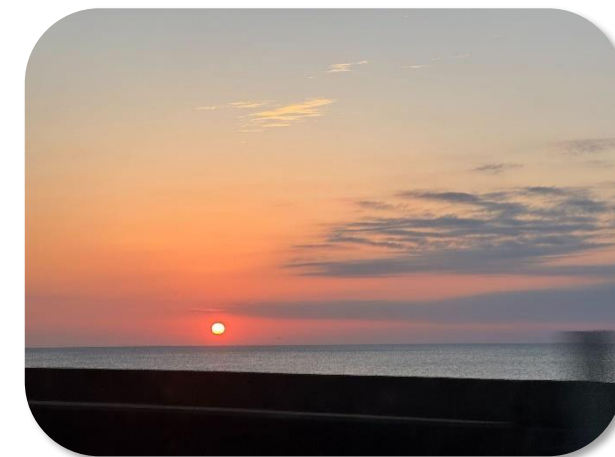


■ 訪問を通して感じたこと

被害の状況は、テレビやネットを通じても知ることができます。しかし、本質的なものは、自身の目で見て、耳で聞くことで初めて知ることができるのだ、ということ、身をもって学びました。

また現地の方々の話を伺う中で、被災地支援の重要性とともに、長期的な関係性の維持が支援活動において鍵となることを実感しました。小川氏の「いただいたご縁を大切に、関係を続けさせていただけることが、私達にとっては大きな大きなご支援でございます」という言葉が深く心に残っています。

通信業界に身を置く者として、今回の体験を忘れず、個人および企業・団体として何ができるかを考え、継続的に支援を形にしていきたい……。能登から金沢への帰路、美しい夕陽を車中から眺めながら、決意を新たにしました。



■ 最後に

現地でご案内いただきました小川さま、木村さま、お話を聞かせていただいた被災地の住民の方々、被災地訪問を企画していただいたKROWの宮内さん、連絡・調整などお世話になりましたJAIPA事務局の石川さん・平さん、そしてご縁あってこの度一緒に被災地を訪問させていただきました皆さま、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後もJAIPA・企業・個人としてできる支援について、みなさまと協力して取り組んでいけたらと思います。

橋本 ゆり

(JAIPA 広報PR部会・ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社)

■ 企画・主催者からのメッセージ

宮内 正久 氏 (JAIPA 理事・KROW株式会社)

震災の爪痕がまだ深く残る現状を目の当たりにし、支援の必要性を痛感しました。私も微力ながら、支援活動を続けていきたいと思えます。一方で、被災地の方々が未来を見据える力強い姿勢に、逆に励まされる気持ちになりました。裏話にはなりますが、今回の視察の打診をしてから、小川さんと木村さんのお二人は、一貫して訪問者である我々にとって有意義な視察となるようさまざまな提案をくださいました。被災後の困難な状況にもかかわらず、常に前向きで親身な姿勢を示されるお二人の人柄に深い感銘を受けました。

■ 寄付金・義援金の受付窓口、その他支援の情報など

- 令和6年能登半島地震に係る能登町災害義援金の受付について
https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20811
- 【緊急支援寄附受付】ふるさと能登町応援寄附
https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20960
- 企業版ふるさと納税 / 能登半島地震の緊急支援のお願い
https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=17796
- 能登高校を応援する会について
<https://notoko-miryokuka.com/20240101-earthquake-disaster-donation/>
- 一般社団法人OPEN JAPAN (能登町を拠点として発災直後から支援してくれている災害ボランティア団体)
https://saigaishien.openjapan.net/?page_id=167
- 一般社団法人LOVE FOR NIPPON (能登町を拠点として発災直後から支援してくれている災害ボランティア団体)
<https://lovefornippon.com/donation>
- 一般社団法人プレーワーカーズ (能登町でこどもの遊び場づくりを継続してくれている支援団体)
<http://playworkers.org/support/>

■参加者からのメッセージ

高橋 穰児 氏 (JAIPA 広報PR部会・株式会社朝日ネット)

復旧はまだまだ全然というショッキングな状況に胸が締め付けられっぱなしの一日でした。「日々のニュースでもあまり触れられなくなっていつの間にか忘れられる。そうなってほしくない。」熱い志で現地を支えていた木村さん・小川さんの言葉も印象的でした。この日の目に焼き付いた風景とお二人の言葉を心に抱いて、能登のためにも自分の家族や大切な人々のためにも命を守るための活動を自分なりのやり方で行っていかうと思います。

虎本 純也 氏 (株式会社日本レジストリサービス)

実際に被災地に赴き、震災と豪雨が起きてから変わっていないであろう所もある現状を目の当たりにして、能登は現在進行形で被災しているということを感じました。震災、豪雨を経験した小川様、木村様からの、「能登を忘れないでほしい」「自分の身を守る行動を」という言葉には、重みがありました。自分も同じ石川県出身として、何らかの形で関わり続けたいと思います。

能登高校魅力化プロジェクトについてのお話も、大変興味深く聞かせていただきました。高校がなくなったら能登町の活気もなくなる、という危機感のもと活動している木村さんのお話は、地方の可能性を感じるものでした。東京などから能登高校への「留学」をするプログラムの参加者が、「能登の高校生が何を考えているかわからない」と相談してきたというお話は、日本国内でも多様な生活様式が存在していることの表れであり、人口減少の中でも、日本国内の生活の多様性を守ることはできないかと考えさせられました。

富宅 秀幸 氏 (NTTスマートコネクスト株式会社)

地方の人口が減ってきて学校の統廃合が進むなか、まちなか鳳雛塾のような存在が子供たちの近くにあることは、子供たちが将来の進路の多様性を知ることが出来る非常に貴重な機会だと感じました。地元にいること、出ること、出て戻ることによって優劣はないですが、様々な可能性があることを知ったうえで少しでも自分の進路を考える機会・醸成出来る場所があることは魅力的な環境です。日本の各地方に今回の能登町/まちなか鳳雛塾のような場所がぜひ出来て欲しいと思いますし、教育については直接県と市が連携できるような枠組みがあるべきと感じました。また能登被災地の現状については、地元の町会役員や子供の学校の父母会幹事をしていることから、能登を忘れず、皆さんにやれる範囲のことを取組んで頂くよう発信させていただきます。

■参加者のレポートご紹介

[「奥能登と災害ボランティアと情報支援」](#) 佐藤 大 氏 (東北医科薬科大学医学部/情報支援レスキュー隊)

10月26日(土)能登 被災地訪問 レポート⑥



